

# 常任・特別委員会の動き

## 藤沢市交通マスタープラン

### 策定に向けた取り組みを報告

建設経済

建設経済常任委員会は、十二月五日に開催され、議案二件、陳情一件を審査した。その結果、議案は全て可決すべきもの、陳情は趣旨不承と決定した。

また、①「藤沢市交通マスタープラン」の策定に向けた取組②「ふじさわサイクルプラン」の策定に向けた取組——以上二件について報告を受けた。

○「藤沢市交通マスタープラン」の策定に向けた取組について

（市の説明）

本プランは、藤沢市都市マスタープランの交通に関する分野別計画として、都市マスタープランの目標年次である平成四十二年を見据えた中長期的な総合交通体系の方向性を示すものであり、市民、交通事業者、



辻堂駅遠藤線での早期導入が検討される連節バス

行政などが連携を図りながら交通施策を展開していく上での、基本的な指針となるものである。これまで、二十五年一月に策定協議会を設置し議論を重ねるとも、十三地区の郷土づくり推進会議と意見交換を行った上で素案として取りまとめた。

近年の少子高齢社会など急速な状況の変化等に対応するため、多様な交通手段を快適に利用できる交通環境づくりが求められており、持続可能な総合交通体系を構築していく必要があること、①市民、交通事業者、道路管理者、交通管理者などの協働により総合交通体系の基本的な方針を定めること②地域交通をマネジメントすること——以上二点を策定の目的としている。

本市を取り巻く状況と交通課題に対して重要視する視点としては、①地域特性②活力③環境にやさしい④安全・安心——以上四点である。

また、本市が目指す将来の交通像を、「人・モノ・まちが、つながる都市・湘南ふじさわ」とし、誰もが暮らしやすく働きやすい総合交通体系の確立を目指していく。

将来の交通像を実現する駅周辺まで三十分の交通体

ために、①最寄り駅まで十五分・藤沢駅周辺まで三十分②最寄りのインターチェンジまで三十分、産業系市街地では十五分③環境にやさしい④人にやさしく・災害に強い——以上四つの交通体系を目指していく。さらに、目指す交通体系に応じて基本方針を設定し、交通施策を展開していく。

具体的交通施策の一例としては、「最寄り駅まで十五分の交通体系づくり」では、いずみ野線の延伸や（仮称）村岡新駅設置による鉄道の整備・充実、辻堂駅・湘南ライフタウン・湘南台駅間など主要なバス路線の充実、また、「藤沢駅周辺まで三十分の交通体

各部の共通課題については、複数の部で同様な取り組みがあるため、課題の整理を行った。その結果、①整備・清掃・清潔・作法）運動の推進③コスト削減の徹底④内部統制・法令遵守の徹底——以上四点を共通課題に加え、新たに全庁課題として設定した。

## 新・行財政改革実行プラン

### 課題の整理と成果指標を設定

#### 行政改革等特別委員会

行政改革等特別委員会は、十一月五日に開催され、藤沢市行財政改革の推進について審査した。

この日の委員会では、平成二十五年外部評価（カイゼンふじさわ）の結果及び市方針・計画の概要並びに「新・行財政改革実行プラン」の整理・更新等の考え方について審査を行った。

○「新・行財政改革実行プラン」の整理・更新等の考え方について

（市の説明）

新・行財政改革実行プランについては、常に見直しを行い、より実効性の高い取り組みとすることとしており、平成二十五年一月に開催された本委員会における指摘や意見を踏まえ、整理課題、通常課題とするもの

改善や路線再編などである。今後の予定としては、二十五年十二月中旬から二十六年二月にかけて、十三地区ごとの意見交換会を開催するとともに、パブリックコメントを実施する。その上で二十六年二月議会に再度報告した後に、二十六年三月には計画案を策定した既存バス路線の利用環境

待機児童の解消 子どもの視点に立った支援を 補正予算

## 待機児童の解消 子どもの視点に立った支援を

補正予算

補正予算常任委員会は、○平成二十五年藤沢市一般会計補正予算（第六号）（主な質問と答弁）

質問 待機児童解消において、女性の社会進出を進め

改善や路線再編などである。今後の予定としては、二十五年十二月中旬から二十六年二月にかけて、十三地区ごとの意見交換会を開催するとともに、パブリックコメントを実施する。その上で二十六年二月議会に再度報告した後に、二十六年三月には計画案を策定した既存バス路線の利用環境

## 藤沢駅周辺地区再整備

### 事業計画案を報告

#### 藤沢駅周辺地区再整備 施設再整備特別委員会

藤沢駅周辺地区再整備施設再整備特別委員会は、十月二十八日、十二月二日に（案）の中間報告について審査を行った。

○藤沢駅周辺地区再整備構想・基本計画に基づく事業計画案について

（市の説明）

藤沢駅周辺地区の再整備構想・基本計画に基づく事業計画案について、今後の進め方及び重点プロジェクト

るための子育て支援を重視する余り、子どもの視点が失われてしまうという危惧がある。また、保育所の整備を進めることで子どもの発達、成長に必要なことを安易に保育所任せにする家庭が増加し、家庭での養育力の低下について懸念され、見解を聞きたい。

答弁 待機児童解消に向けては、現在全力を挙げて取り組んでおり、その中でも子どもにとって最善の利益を目指し、保育の質について考えている。

家庭での養育力の向上に力を入れており、子育て支援センターや地域の子育て支援サークル等との連携を図るこ

江の島・湘南海岸の玄関口の整備等に取り組んでいく。都心部再活性化に向けては、行政、事業者、事業者等が主体的に事業を推進し、また連携して取り組むことが必要であり、藤沢駅周辺駅前広場のリニューアル等を進め、後半の五年で自由通路の拡幅や南口駅前広場



藤沢駅北口ペデストリアンデッキ(リニューアルイメージ)